

浦添市 浦添前田駅・経塚駅周辺概要説明書

平成 31 年 2 月 8 日

浦添市都市建設部美らまち推進課

1. 対象地区の設定

パークマネジメントの取組みの対象地区は、第四次浦添市総合計画（H28年3月）に示されている「ウラオソイ文化交流ゾーン」とします。

ウラオソイ文化交流ゾーンは、浦添市のシンボルである浦添グスクを有し、浦添大公園や小湾川周辺の森や畑など多くの緑が残されています。浦添の風土を活かし、自然とふれあえ、歴史文化と調和した、快適で美しいまちづくりを進める地域です。

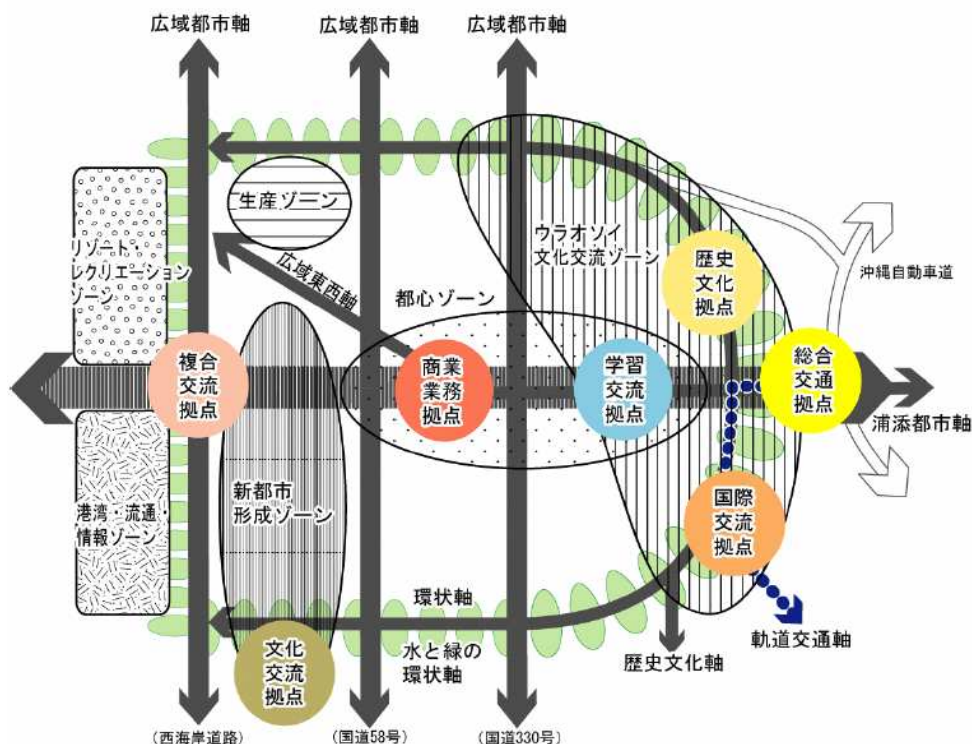
パークマネジメントの取組みを推進するにあたっては、歴史文化的な価値観を大切にしながら、時代の要請にも対応した創造性豊かで、持続可能なまちづくりの実現を目指します。

なお、統計等の整理については、ウラオソイ文化交流ゾーンとの重なりを考慮して、都市計画マスタープランの「中央南地域」を参考とします。

[第四次浦添市総合計画（基本構想・後期基本計画）【計画期間：平成28年度～平成32年度】（H28年3月）]

- ・土地利用の方針において、浦添前田駅・経塚駅周辺は「ウラオソイ文化交流ゾーン」に含まれ、歴史文化拠点、国際交流拠点が位置付けられている。

都市空間図



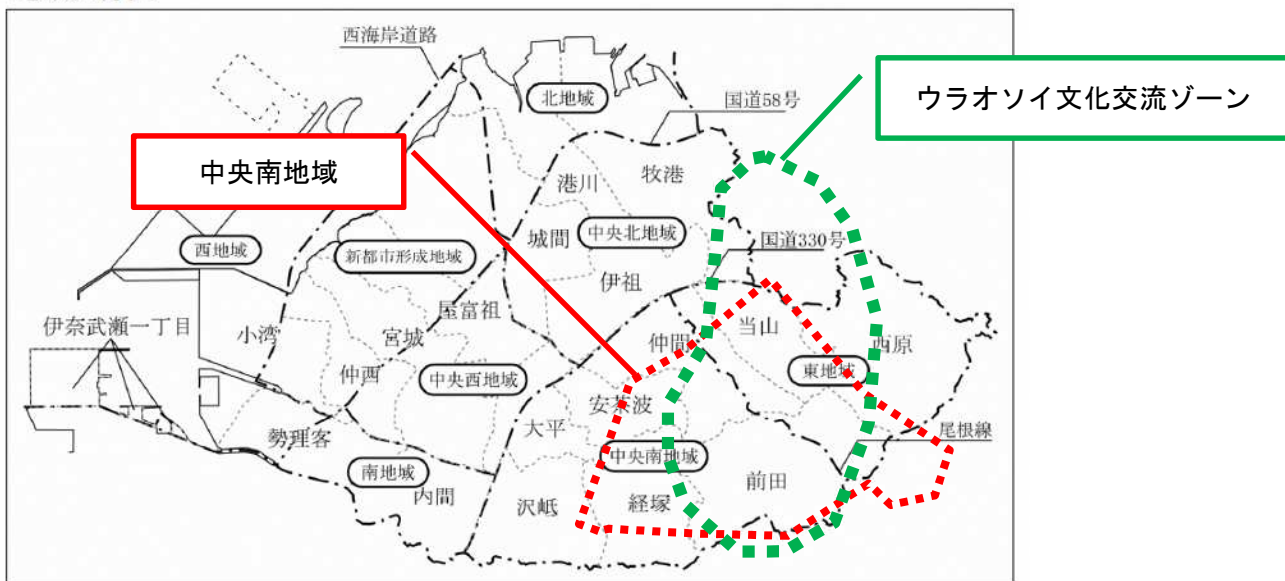
出典：第四次浦添市総合計画（基本構想・後期基本計画）

[都市計画マスタープラン(H25年1月)]

- ・土地利用のゾーニング上は、浦添前田駅・経塚駅周辺は「ウラオソイ文化交流ゾーン」に含まれる。
- ・地域区分については、浦添前田駅・経塚駅周辺は「中央南地域」に区分される。
- ・「ウラオソイ文化交流ゾーン」は「中央南地域」を包含している。



■地域区分図



2. 上位計画、関連計画の整理

上位計画及び既往設計による対象地区及び公園、モノレール新駅の位置づけは以下の通りである。

表 対象地区の位置付け

上位関連計画名	対象区域の位置付け
浦添市都市計画 マスタープラン (H25. 1)	<p>【中央南地域まちづくり方針】</p> <p>将来市街地目標[歴史が薫り、森と水辺に憩うまち]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浦添市の行政・文化の中心として、また国際交流の核を形成する地域 ・今後予定される沖縄都市モノレール延長により交通機能の拡充が期待され、新たな機能立地を展開する地域 <p><対象地区周辺></p> <ul style="list-style-type: none"> ・開発団地における適正な更新を促進するとともに、良好な住環境の確保を図る ・道路美装化や沖縄国際センターとの連携強化により、にぎわいの創出や市街地の質の向上を図る
浦添市景観まちづくり 計画 (H20. 3)	<p>【既存区画整理・開発団地地区】</p> <p>方針1 開発地区の暮らしに密着した新たな地域資源を育成・創造します (共有空間)</p> <p>方針2 開発地区のまとまりあるまちなみ景観を形成します (私有空間)</p> <p>方針3 開発地区内の安全でうるおいある通り景観を形成します (公有空間)</p>

表 前田公園・経塚公園の位置付け

上位関連計画名	前田公園	経塚公園
第四次浦添市総合計画 前期基本計画 (H23.3)	<ul style="list-style-type: none"> ・市民参画を基本に、ユニバーサルデザインの視点を含め、自由な発想を大切に魅力ある公園づくり ・自治会・ボランティア団体・NPO・企業等の幅広いパートナーシップを構築 ・計画立案・事業実施等の各段階で、ワークショップ等を開催するなどして市民協働によるまちづくりを推進 	
第四次浦添市総合計画 後期基本計画 (H28.3)	<ul style="list-style-type: none"> ○市民参加型による花と緑のまちづくりの推進 (ワークショップによる公園づくり、公園や緑をテーマとしたイベント、美らまちサポーター制度、樹木等配布など) ○モノレールの車窓からの眺望景観に配慮した緑化等 	
浦添市都市計画 マスタープラン (H25.1)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民にとって身近な憩いと安らぎの場、レクリエーションの場、災害時の避難場所 ・地域住民との十分な合意形成 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・住区基幹公園（地区公園） ・未整備の公園の整備を促進 	<ul style="list-style-type: none"> ・住区基幹公園（近隣公園） ・未整備の公園の整備を促進
浦添市景観まちづくり計画 (H20.3)	<ul style="list-style-type: none"> ・特徴ある地形を活かすよう工夫する。 ・まとまった緑地や老木等を活かすよう努める。 	
第五次てだこ高齢者プラン (平成30年3月)	<ul style="list-style-type: none"> ・「高齢者の外出を促進する環境づくり」の施策の一環で、公共施設をはじめとする建築物や道路、公園等のバリアフリーを推進する。 	
てだこ・結プラン -第四次浦添市地域福祉計画- (平成26年3月)	<ul style="list-style-type: none"> ・住みよい地域づくりを進めていくため、誰にでも利用しやすい道路、公園、公共施設等の整備を進めるなど、バリアフリー環境づくりを行っていくとともに、要援護者を支えるための体制整備を図る。 	
浦添市スポーツ推進計画 (平成27年3月)	<ul style="list-style-type: none"> ・「身近な所でスポーツが楽しめる環境の整備」の施策の一つとして、「公園施設の整備」が掲げられている。身近な公園において気軽に運動を楽しむことができるよう、公園の健康遊具や多目的広場の充実など環境整備に努めるとしている。 	

表 浦添前田駅・経塚駅の位置付け

上位関連計画名	浦添前田駅	経塚駅
浦添市都市計画マスタープラン (H25.1)	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな玄関口として、歴史文化資源と調和した土地利用 ・賑わいの創出や観光客・地域住民との交流機能の充実 ・交流広場や観光案内版の整備など、浦添グスク等歴史文化的資源との連携機能の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・周辺市街地の賑わいの創出や隣接する沖縄国際センターなどの利活用促進 ・土地区画整理区域において、道路美装化や沖縄国際センターとの連携強化により、にぎわいの創出や市街地の質の向上
浦添市観光振興計画 (平成 28 年 3 月)	<ul style="list-style-type: none"> ・モノレール駅等の観光目線での機能充実 ・モノレール駅周辺の宿泊施設や観光・交流拠点の充実 	-
浦添市産業振興ビジョン (平成 30 年 3 月)	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ医療関連の産業振興・研究開発拠点化 (医療事業者の集積やリハビリを必要とする競技者等の増加) ・観光系情報発信の拠点化を踏まえた、観光産業系事業者の誘致、観光系産業の拠点化 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のコミュニティを活用した SB・CB の創出拠点 (JICA 沖縄との連携により SB・CB のアジアを中心とした展開の拠点化も想定)
沖縄都市モノレール新駅計画 設計資料 (平成 30 年)	<ul style="list-style-type: none"> ・駅舎設計のテーマは、「時・思いを紡ぐ駅」 ・駅前交通広場の整備方針は、「歴史文化を形成する交流広場」 ・広場にシンボルツリーを設置し、その周辺には芝生広場を整備し、立体的及び平面的に緑あふれる空間を確保する。 ・浦添の玄関口として地域活動・地域交流を行う空間として交流スペースを整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・駅舎設計のテーマは、「緑と文化の架け橋」 ・デザインは、経塚公園等地域周辺の「緑」と調和する構造形式。 ・駅前交通広場は、経塚公園の歩道仕上げに近い舗装等を利用することにより、一体的な空間を感じられるよう配慮する。

上位計画のまとめ

【市民の問題意識】 ※まちづくり生涯学習推進基本計画・地域福祉計画より

- ・まちづくりへの参加意欲やコミュニティ形成、地域活動の場の必要性に対する意識が高い
⇒集会所や図書館などの必要性、近隣の人たちやコミュニティとのかかわりについて重要度が高い一方、満足度が低い
⇒まちづくりや地域活動への意欲として「参加したい」・「機会や条件、内容によって参加したい」と答えた人が7～8割

【対象地区の位置づけ】 ※都市計画マスタープランより

- ・将来市街地目標「歴史が薫り、森と水辺に憩うまち」
- ・浦添市の行政・文化の中心として、また国際交流の核を形成する地域
- ・沖縄都市モノレール延長により交通機能の拡充が期待され、新たな機能立地を展開する地域

【公園及び周辺整備に関する事項】 ※各種上位計画より

- ・住民参加（ワークショップ等での参画、パートナーシップ構築）
- ・ユニバーサルデザイン（バリアフリー等）
- ・花と緑のまちづくりの推進

【モノレール新駅周辺整備に関する事項】 ※都市計画マスタープラン・産業振興ビジョンより

- ・賑わい創出や観光客・地域住民との交流機能の充実
（交流広場や観光案内板整備）
- ・スポーツ医療関連の産業振興・研究開発拠点化

3. 対象地区の概況

地域概要について次項以降の通り整理した。なお、対象地区と統計データの対象等の関係は下図の通りである。

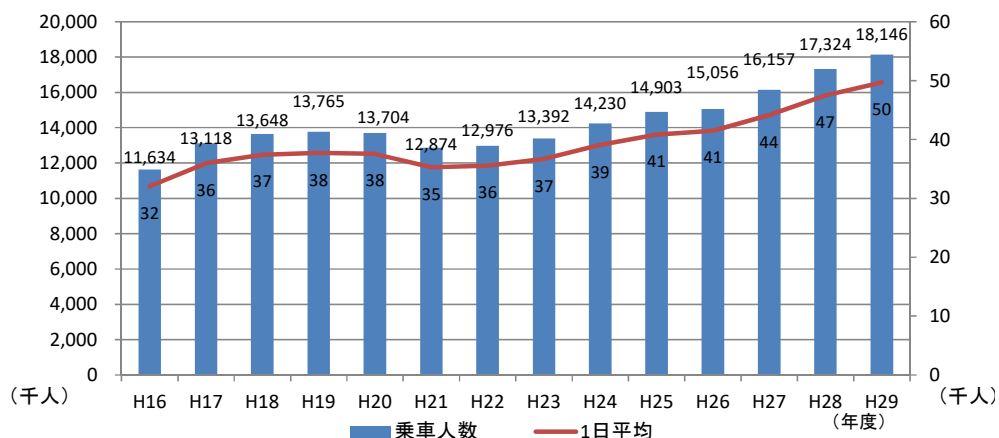


図 対象地区と統計データの関係

① 駅乗降客数

■モノレール利用者数の推移

- ・ゆいレールの利用者数は平成 21 年以降増加し、5 千人以上増加。
- ・1 日の平均も約 3.5 万人から約 5 万人に増加。
- ・平成 21 年の観光客による割合は 2 割であり、近年ではインバウンド等による更なる観光利用が想定される。



(出典：沖縄県 HP「乗客数の推移」より作成)

図 モノレール利用者数の推移

■モノレール延伸区間の利用想定

- ・モノレール延伸区間の駅（浦添市内）の乗降客数の想定は、下表の通りである。



【1日あたりの乗降客数（見込み）】

経塚駅	約 2,600 人
浦添前田駅	約 2,600 人
てだこ浦西駅	約 3,300 人

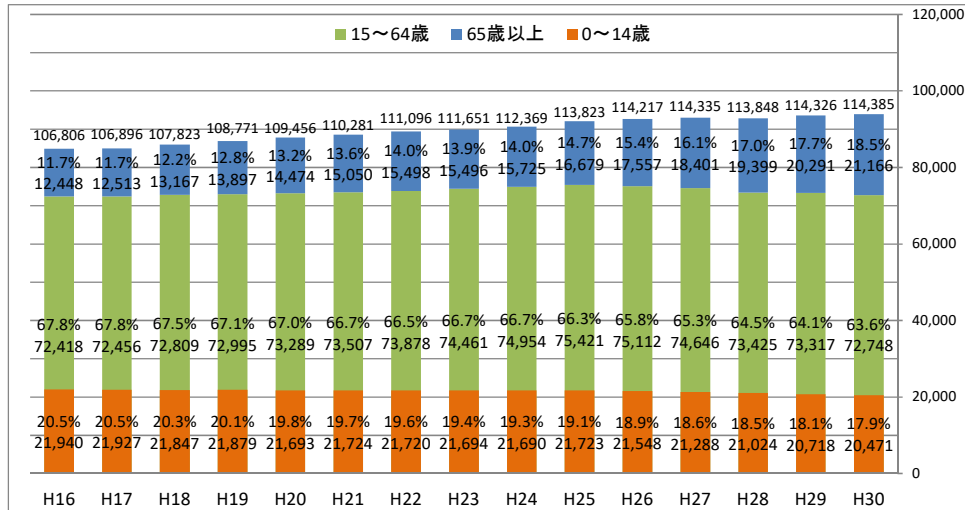
(出典：浦添市広報誌(H30.1)より)

図 モノレール延伸区間

② 人口

■人口動態（浦添市全体の状況）

- ・浦添市の人口は平成16～26年で約7500人増加（約7%増）し、それ以降は概ね横ばいの傾向である。
- ・平成30年1月時点の高齢化率は18.5%と県内でも低い方であるが、年少人口・生産年齢人口ともに年々減少しており、平成30年には老年人口が年少人口を上回っている。

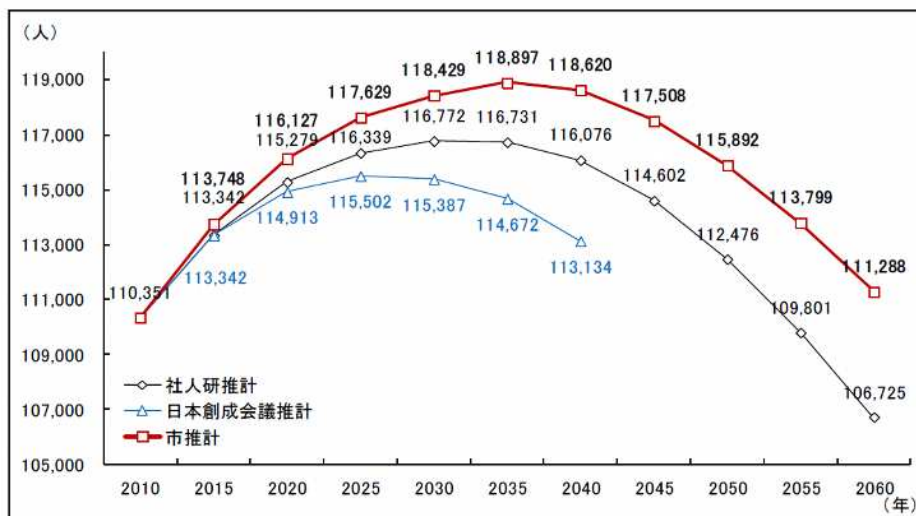


（出典：浦添市HP住民基本台帳データより作成）

図 浦添市人口動態

■人口推計及び年齢3階級別の人口見通し

- ・いずれの推計値も今後人口は増加し、2025～2035年頃をピークに減少に転じる推計となっている。
- ・市推計では2035年頃まで増加し、その後減少に転じるものの2060年では2010年時と同程度と推計されている。



※ 2010(平成22)年は国勢調査に基づく実績値(年齢不詳を含まない)

図 浦添市人口推計

- ・年少人口及び生産年齢人口は既にピークを迎え、今後、次第に減少する推計となっている
- ・高齢化率は2020年には2割を、2040年には3割を超える見通しとなっている

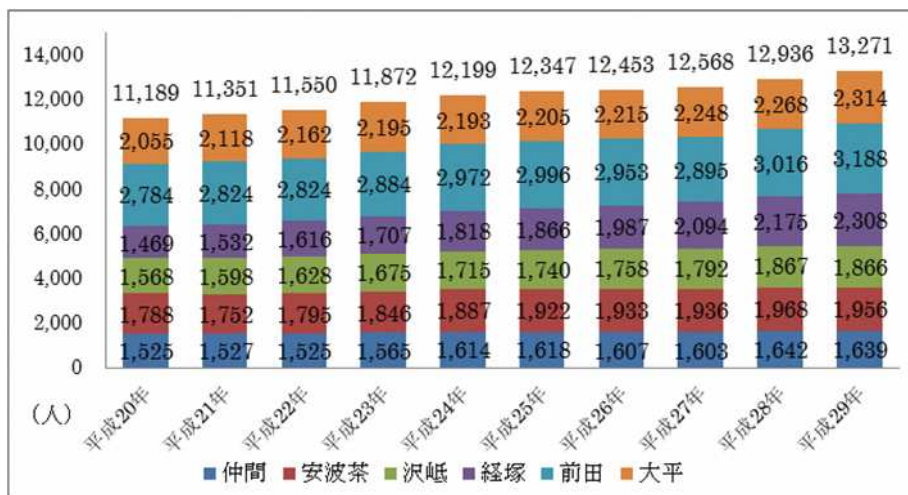


(出典：浦添市人口ビジョン (H28.2) より)

図 浦添市人口推計 (区分別)

■世帯数の推移 (対象地区の状況)

- ・対象地区の世帯数は年々増加しており、概ね年間約1～2%の増加率で推移している。
- ・6字とも10年間で数百世帯が増加しており、特に経塚地区では約800世帯増と顕著に増加している。



(出典：浦添市HP「統計うらそえ」データより作成)

図 対象地区の世帯数の推移

■人口の推移（対象地区の状況）

- ・平成20年以降、対象地区の人口は概ね増加傾向である。
- ・平成20～29年の10年間で約1800人増加しており、市全体の増加数約4900人の約1/3を占める。
- ・6字のうち、経塚、沢岬については、10年間で顕著に増加しており、それぞれ約1500人、約400人増加している。



（出典：浦添市HP「統計うらそえ」データより作成）

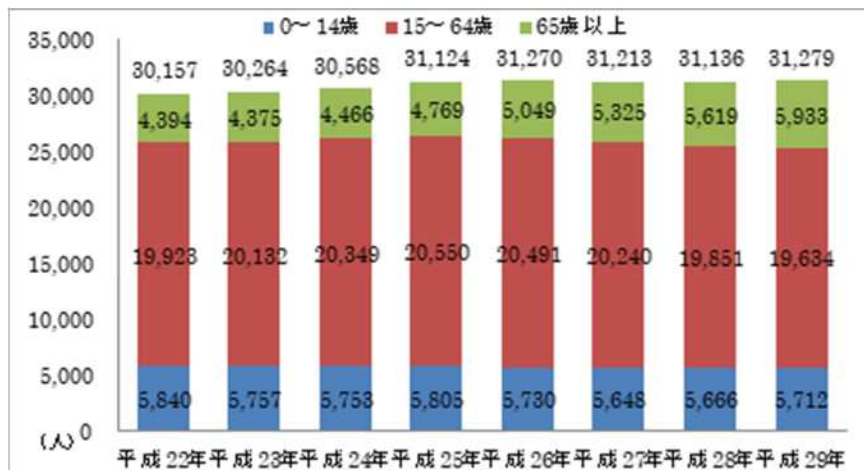
図 対象地区の人口の推移

- ・対象地区の世代別人口の状況は下記の通り。

年少人口：横ばい～減少傾向、生産年齢人口：平成25年をピークに減少傾向

老年人口：増加傾向

※世代別人口は住民基本台帳を基に作成しており、字別人口の数値と異なる。



65歳以上	14.6%	14.5%	14.6%	15.3%	16.1%	17.1%	18.0%	19.0%
15～64歳	66.1%	66.5%	66.6%	66.0%	65.5%	64.8%	63.8%	62.8%
0～14歳	19.4%	19.0%	18.8%	18.7%	18.3%	18.1%	18.2%	18.3%

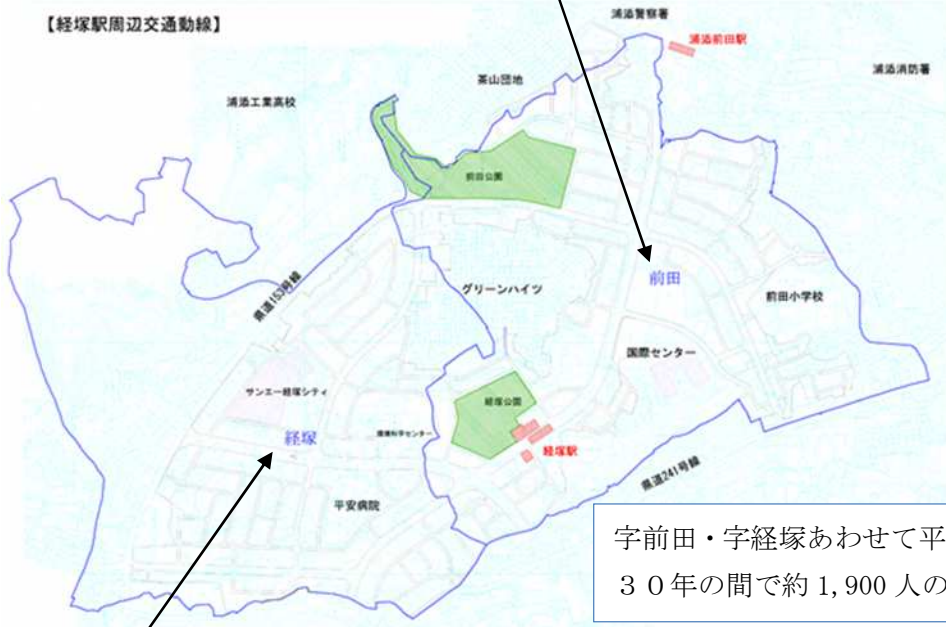
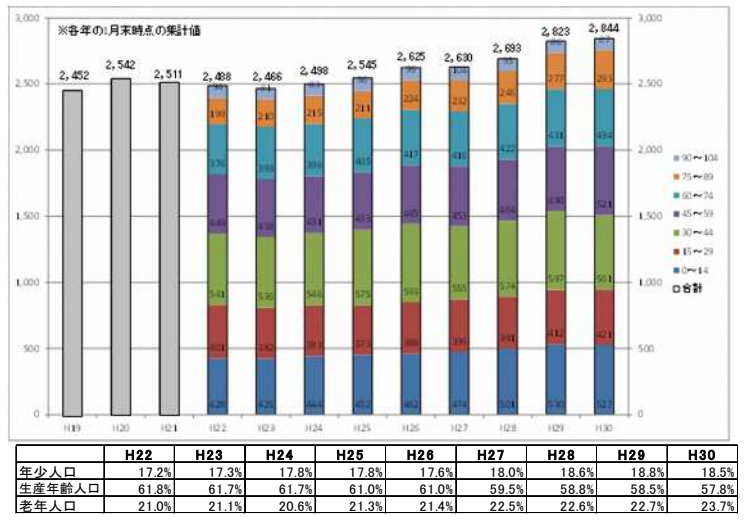
（出典：浦添市HP「住民基本台帳」データより作成）

図 対象地区の人口の推移（区分別）

■字前田・字経塚の人口

字前田

- ・字前田では平成 19 年以降概ね増加傾向にあり、特に平成 29 年は前年比 4.8%増と増加率が高い。
- ・平成 22 年以降、世代別では年少人口・老年人口及びそれらが全体に占める割合も増加している。
- ・平成 22～30 年で高齢化率は 2.7%増と、市全体（4.5%）と比べて緩やかな増加。



字前田・字経塚あわせて平成 19 年から 30 年の間で約 1,900 人の増加

字経塚

- ・字経塚では平成 19 年以降年々増加しており、特に平成 23 年以降は前年比 3%以上の割合で安定して増加している。
- ・平成 22 年以降、世代別では年少人口・老年人口が増えており、全体に占める割合では老年人口のみ増えている。
- ・平成 22～30 年で高齢化率は 2.8%増と、市全体（4.5%）と比べて緩やかな増加。

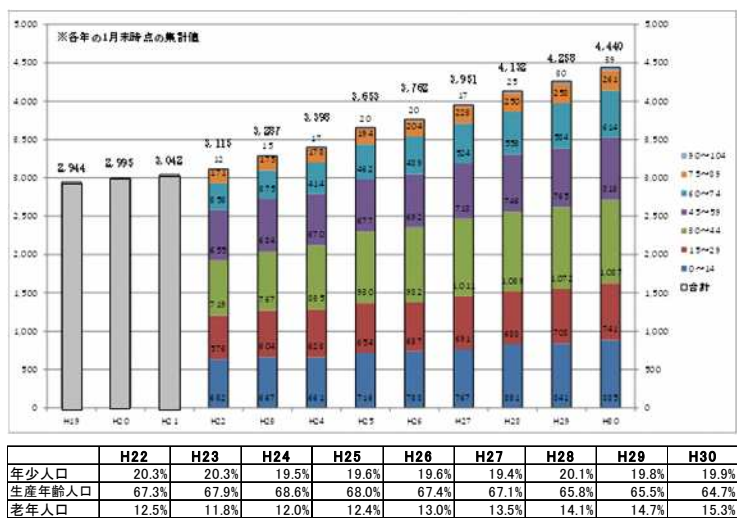


図 字前田・字経塚の人口（世代別）

(参考) 主要施設の観光利用予測

観光客等による浦添前田駅利用者数は 200～300 人/日、年間約 10 万人と予測されている。

◆浦添前田駅から利用する観光客を主とした利用者予測 (過年度等の結果を踏まえ、浦添前田駅から利用する観光客数を予測)		
1 日の利用者予測	1 年間の利用者予測	備考
200～300 人	約 100,000 人 <ul style="list-style-type: none"> ・平日 222 人×230 日=51,060 人/年 ・休日 353 人×120 日=42,360 人/年 計 93,420 人/年	<ul style="list-style-type: none"> ・営業日数 350 (平日営業 230 日、休日営業 120 日、非営業日 15 日 (月 1 回 (年 12 回) と年末年始 3 日))
<内訳> ○過年度報告書の平成 28 年度の報告書 (沖縄都市モノレール駅周辺地区市街地促進業務委託 (経塚駅・浦添前田駅) P100～101 より) ●浦添前田駅における観光利用の降車数は概ね 200～300 人/日、年間約 10 万人と予測 <内訳> <ul style="list-style-type: none"> ・浦添前田駅降車数=1,308 人 (参考⇒乗降客数: 2,705 人、乗車数: 1,397 人) (沖縄県モノレール延長区間需要平成 42 年度予測「都市モノレール延長事業における需要予測の説明資料」(平成 27 年 12 月) より) ・平日利用者数 (観光客) =1,308 人×17%=222 人 (「平成 21 年度沖縄都市モノレール利用 OD 調査委託業務報告書」(平成 22 年 3 月) の乗客の利用割合 (平日の観光の割合 17%) より) ・休日利用者数 (観光客) =1,308 人×27%=353 人 (「平成 21 年度沖縄都市モノレール利用 OD 調査委託業務報告書」(平成 22 年 3 月) の乗客の利用割合 (休日の観光の割合 27%) より) ・週内日平均 (観光客) =1,308 人×20%=261 人 (「平成 21 年度沖縄都市モノレール利用 OD 調査委託業務報告書」(平成 22 年 3 月) の乗客の利用割合 (週内日平均の観光の割合 20%) より) 		

参考 ようどれ館の利用者数推移

	沖縄県内	沖縄県外	国外	計
H28 年度	4,674 人 (64.4%)	1,985 人 (27.4%)	597 人 (8.2%)	7,256 人
H29 年度	5,956 人 (65.4%)	1,836 人 (20.1%)	1,322 人 (14.5%)	9,114 人

※H29 年度の利用者数は 4 月～12 月までの集計結果

地区概況まとめ

【人口】 ※統計うらそえ・住民基本台帳より

- ・対象地区の人口増加率は市内でも著しく高い
⇒市全体では平成 20～29 年の 10 年間で約 4,900 人増加、うち、約 3 分の 1（約 1,800 人）は対象地区で増加
- ・市全体の傾向に反して、対象地区では年少人口が増加しており、高齢化率の増加も緩やか
※要確認

【交通】 ※浦添市地域公共交通会議資料・交通基本計画より

- ・モノレール延伸及び支線となる公共交通により、交通不便地域の解消が期待される
⇒浦添前田駅、経塚駅では約 2600 人、てだこ浦西駅では約 3300 人の乗降が見込まれている
⇒浦添市地域公共交通会議にて浦添前田駅や経塚駅を通る経路を含む支線公共交通運行ルート（案）が検討されている
- ・今後更なる歩行利用が想定される一方、歩道ネットワークが脆弱

【土地利用・導入施設】 ※ヒアリング結果より

- ・地価は市全体と比べても高い増加率で高騰
- ・地元からは自然や公園の有効活用と利便性向上を図る施設（駐車場、歩道橋、保育所・カフェ等）の整備が求められている
- ・新しい公園では BBQ や農園等の市民利用、また、健康まちづくりの要望も挙がっている

(3) 地元住民意向

① 経塚公園の活用意向（ワークショップ・地元意見交換結果）

平成 25 年開催の経塚公園のワークショップにおける公園の活用意向は下表の通りである。

※ワークショップ概要…経塚公園の基本設計を遂行するにあたり、地域と一緒に考え、つくり育て、誰もが憩える公園づくりを目指し、ワークショップを開催（平成 25 年 10 月 25 日～12 月 5 日）。参加者は、ⅠグループからⅢグループ各 10 名程度。

表 経塚公園の施設・利活用に関する意見

分類	意見	
園路・広場	<ul style="list-style-type: none"> ・イベント広場を芝生に ・多目的広場は大きい四角がとれるように ・<u>近隣自治会と合同利用できる規模の広場</u> ・<u>災害時の避難場所として利用</u> ・多目的広場と遊具広場をつなげて ・<u>景観的に特色のある公園を</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・駅前に遊具広場を ・丘を増やし、森を狭く ・起伏を活かしたこども広場 ・テニスコート設置 ・8ホール程度のGゴルフ場
具体的施設	<ul style="list-style-type: none"> ・池がほしい ・こどもが遊べる噴水広場がほしい ・ウォーキングコース ・サイクリングコース 	<ul style="list-style-type: none"> ・ドッグラン ・散策コース ・園路の一周建設 ・森の中にアスレチック
修景施設	<ul style="list-style-type: none"> ・保全する樹木の選別、エリア別など ・<u>沖縄の樹木（フクギ、ホウオウボク等）</u> ・自然植生を理科教育や環境学習に ・見通しの良い公園として芝植栽を主に ・<u>園路はクワディーサーの樹木を</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・丘はいらない ・桜通路がほしい ・周辺は樹木で ・地形をいかす ・祭ができるように
休養施設	<ul style="list-style-type: none"> ・ベンチを多めに配置 ・休憩舎を多く配置 	<ul style="list-style-type: none"> ・東屋やベンチを多めに設置 ・<u>トラバーチンの石いす</u>
便益施設	<ul style="list-style-type: none"> ・駐車場規模を大きく 	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレ2か所、男女離す
運動施設	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学生用にバスケ場、テニス場など 	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ施設の設置
遊戯施設	<ul style="list-style-type: none"> ・幼・小・中が遊べる場所 ・ローラースライダー 	<ul style="list-style-type: none"> ・山の頂上へつり橋つける
管理施設	<ul style="list-style-type: none"> ・街路灯を多く 	<ul style="list-style-type: none"> ・ハブ対策
駐 車 場	<ul style="list-style-type: none"> ・モノレールと連動して有料（50台程度） 	<ul style="list-style-type: none"> ・規模を大きく
そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>景観が素晴らしい公園にし、駅名は「経塚公園駅」に</u> ・工夫してグリーンハイツ内の車両を規制 ・自転車でグリーンハイツから公園を通り、駅へ 	<ul style="list-style-type: none"> ・待ち合わせオブジェ ・平坦な遊歩道と手すり ・売店 ・全天候型の園路

上記の他、近隣自治会（前田、経塚、浦添グリーンハイツ自治会）から出た要望は以下の通り（平成 29 年 1 月 11 日）。

- ・スケートボード専用の施設設置

4. 対象地区周辺地域資源・プロジェクト等一覧

区分	名称	概要
歴史・文化	国指定史跡浦添城跡復元整備	平成8年度より浦添城跡の復元整備事業を行っている。浦添城跡を四期にわけて平成42年度完成を目標に実施。
	浦添大公園整備	県営公園。史跡の保存を図りながら、県民のレクリエーション及び憩いの場として整備する。 県、S47～、面積：37.4ha
	浦添墓地霊園	浦添市にある霊園・墓地。
	世界遺産追加登録	浦添城世界遺産追加登録を目指し、様々な取り組みを行っている。
	ようどれ館・南エントランス	古写真や発掘調査のパネル、出土遺物などから、浦添グスクと浦添ようどれの歴史がわかりやすく学べる。
	前田の棒	棒を使った勇壮活発な集団演技で、古くから沖縄各地で行われてきた民俗芸能。
	ハクソーリッジ	日本とアメリカとの戦争映画。クライマックスの舞台が「前田高地」である。
	井の大人川	「井の中でも尊い井」という意味で「井の大人川（キのウシガー）・地域の人の呼び方ではイノーシガー」と呼ばれる。
	ワカリジ	浦添城跡の東端に高く突出した石灰岩で、今なお人々の信仰を集める拝所（御嶽）。
	経塚の碑	「金剛嶺」の三文字が刻まれた石碑。
	仲間樋川	浦添市内でもっとも大きな井泉の一つ。
	赤皿ガー	琉球王朝時代に造られた安波茶橋のすぐそばの岩の下から、今も静かにわき続けている湧水。
	メヌハルガー	浦添市前田にある井戸。
	東前田原古墓群	浦添市の字前田から経塚の丘陵一带に所在する墓群。
	玉城朝薫の墓	浦添市前田にある組踊の祖・玉城親方朝薫の墓。
	前田の高御墓	前田集落拝所の森の中にある墓。
	夫婦河	湧水。
	龍巻井ガー（ルーマシガー）	経塚にある井戸。日照りの時、龍が天に立ち上るのを観て掘ったところ、水がこんこんと湧き出たところから名前がついたと言われている。
	文格毛跡	経塚の碑から南方130m離れたバス亭の近くにある。以前は土山であったが、半分以上が削り取られ、昔の面影はない。
	フェヌヒラ（南の坂）	「尚寧王の道」の難所。現在も急坂となっている。約400年前に尚寧王によって整備された浦添と首里を結ぶ琉球王国時代の街道である。
	ニシヌヒラ（北の坂）	「尚寧王の道」の難所。現在は石段となっている。約400年前に尚寧王によって整備された浦添と首里を結ぶ琉球王国時代の街道をあるルートのひとつ。
	七番毛	王様が道すがら休憩した広場。
	浦添御殿の墓	市内でも最大級の墓。第二尚氏尚穆（しょうぼく）の次男 浦添王子朝央を祖とする政治家や文化人を多数出した浦添家の墓。
	安波茶馬場跡	浦添でよく知られていた馬場の中でも代表格の馬場で、いつ頃から開かれ、その規模などについては不明。現在の市役所庁舎の南側にあたるが、駐車場などに使用されている。
安波茶橋	16世紀に建造された、浦添グスクから首里まで続く琉球王朝の歴史を感じる古道。	
当山の石畳	浦添市前田から北へと続く当山の石畳道は、琉球王国時代、国王はこの道を通って首里城から普天間宮へと参詣したといわれている。『ちゅらさん』のロケ地。	
賑わい交流	観光交流拠点施設 浦添城跡、伊祖城跡、浦添大公園一帯の歴史・文化拠点、沖縄国際センターを中心とし、さまざまな市民活動が展開する交流空間として計画されている施設。 平成31年開業予定の沖縄都市モノレール浦添前田駅周辺	

区分	名称	概要
		を新たな“顔”として、近隣の歴史遺産である浦添グスク・浦添大公園との連携や駅前を中心とした交通結節点の形成及び景観づくりを進めることにより、にぎわいの創出及び交流促進を目指している。
	浦添前田駅周辺土地 画整理事業	モノレールの延伸による浦添前田駅とその周辺地区において、新たな玄関口として、交通結節点の整備、賑わい創出や交流促進の基盤整備と駅周辺の効率的な土地利用の実現を図る土地区画事業。 【事業認可（公告日）】平成29年8月1日 【面積】約2.0ha 【都市計画決定（変更）】平成29年11月7日
	浦添南第一土地区画整 理事業・地区計画	道路網の未整備と地形の起伏の激しさから大部分が未利用地として放置されているため、公共施設の整備改善と宅地の一体的造成を先行的に行うことにより、今後の住宅地需要に対応した計画的な住宅市街地の形成を図る土地区画事業。 平成4年度から事業着手、平成10年に仮換地指定を行い、本格的に工事の着手。 【施行年度】平成4年度～平成30年度：（事業認可期間） 【施行面積】82.4ha 【総事業費】約344億円 【事業認可（公告日）】平成4年6月16日 【平均減歩率】31.11%
	浦添南第二土地区画整 理事業・高度利用地区 計画	区内の最大標高差が70m以上ある起伏の激しい地形であるため、緑の骨格となる良好な居住環境を確保し、今後の住宅地需要に対応した計画的な住宅市街地の形成を図る土地区画整理事業。高地利用地区を指定し、核となる商業・業務の立地を図ることとしている。 【施行年度】平成8年度～平成32年度（事業認可期間） 【施行面積】60.4ha 【総事業費】285億円 【事業認可（公告日）】平成9年1月10日 【平均減歩率】38.13%
	てだこ浦西駅周辺土地 区画整理事業	本地区は、隣接する沖縄都市モノレールてだこ浦西駅及び沖縄自動車道のインターチェンジ整備により総合交通結節点機能を活かした浦添市の東の玄関口として、また沖縄本島中北部地域の玄関口として地域活性化の拠点として位置づけられている土地区画整理事業。 土地区画整理事業の実施により、現在未整備の区域の土地の有効活用を図ると共に、地区の持つポテンシャルを上げ、モノレール駅を中心とした魅力あふれるまちづくりを目指す事を目的としている。
自然環境・景 観	景観まちづくり計画	景観形成や住環境改善の方策として建築協定締結、地区計画、都市景観賞の制定（S59）、彫刻のある街づくりなどの実践的な計画。
	景観地区	景観まちづくり重点地区は、「浦添市景観まちづく条例」第10条に位置づけられている地区。 浦添グスク周辺地区での展開。浦添グスク周辺地区での展開にあたっては、一様に重点地区としてルールを設けることが困難であるため、特性に応じて複数の「重点地区」を順次設定していく必要。その中でも優先度の高い地区は仲間地区。 仲間重点地区の区域：県道38号線、県道153号線、浦添大公園区域に囲まれた仲間2丁目を中心とする範囲。 【面積】19ha
	仲間地区、当山地区	計画における重要かつ先導的なモデルとなる地区で、浦添市景観まちづくり条例第10条に基づき定められた地区。
	小湾川上流	浦添市前田より流れ出ている川。ホタル、水棲生物が観察できる。
産業振	郵便局	浦添郵便局（仲間）

区分	名称	概要
興	沖縄銀行	大平支店（安波茶）、経塚支店（経塚）、
	沖縄県労働金庫	浦添支店（安波茶）
	J Aおきなわ	浦添支店（安波茶）、沢岬支店（沢岬）
	沖縄県環境科学	健康の保持増進に必要な食品、飲料水等並びに生活環境の保全及び管理に関し必要な検査、調査研究、啓発等を行い、もって地域社会の健全な発展に寄与する事業を行っている。
交通	コミュニティバス社会実験	交通不便地域の解消や高齢化社会への対応、モノレールと連携した公共交通の確保等、地域の実情に即したコミュニティバス導入について必要事項を検討し、移動の利便性向上を図ることを目的に浦添市コミュニティバス実証実験を実施。 【実証実験期間】平成22年12月～平成23年2月（3か月）
	路線バス	55 牧港線（宜野湾営業所～道の駅豊崎）、56 浦添線、99 天久新都心線、47 てだこ線、87 赤嶺てだこ線、191/91 城間線
	県道浦添西原線拡幅整備	浦添市字港川崎原地内から同市字城間大川地内までの延長約1,550mの区間の線改築事業及びこれに伴う市道付替工事。
	国際センター線	字前田山川原～首里大名町三丁目の延長約1,580mの市道（平成29年浦添市決定）。高度地区を指定。
	ゆいれーる延伸	沖縄都市モノレールは、首里から、てだこ浦西までの延伸。開業予定は2019年夏頃。
	県道153号線整備	道路斜面の崩壊や落石などのおそれのある箇所について、災害の発生を未然に防ぎ、道路利用者の安全を確保するために、法面の保護や落石防止対策などの整備を行う。
医療・健康	平安病院	経塚にある浦添市で唯一の精神科を有する病院。 【診療科目】精神科、心療内科、内科 【地域医療活動】精神科デイケア、精神科デイトケア、訪問看護、精神医療相談 【許可病床数】393床（精神保健指定病床数15床） 【敷地面積】13,618㎡ 【付属施設】自立訓練（生活訓練）施設、自立訓練事業所「経塚苑」、就労移行支援施設、就労支援事業所「就労プラザ わく・わく」、相談支援事業所「ゆんたく」、サテライトクリニック「かもめクリニック」
	GULF	牧港、前田にあるスポーツクラブ。
	浦添総合病院（移転）	浦添市伊祖にある社会医療法人仁愛会が運営する私立病院。床数：334床（一般・開放病床） 特色：地域医療支援病院、医療連携、開放型病床、DPC医療機関群Ⅱ群、救命救急センター、地域災害拠点病院 取組：ドクターヘリ事業、ドクター事業、治験事業等
	てだこウォーク	琉球王朝発祥の地として大交易時代の扉を開き、琉球王国500年の輝かしい歴史を背景に、11万市民のホスピタリティでウォーカーを迎える。浦添城跡などの歴史的な史跡を巡るだけでなく新しく開通した浦添西海岸道路を巡るなど様々なコースがある。
	浦添てだ桑茶	浦添市伊奈武瀬で生産販売している特産品。桑の葉には食物繊維やカルシウム等が豊富に含まれている。国立沖縄高専では、シマグワにおける糖の吸収阻害効果の機能性研究などが進められている。
高齢者・子育て	経塚ゆいまーる	浦添市立経塚児童センター、障害児通園施設、経塚地区福祉・生涯学習推進施設。 児童の健全な遊びの場の提供などを目的として設置。
安全・安心	JICA国際センター	標高104mに位置するJICAの教室を災害時に外国人支援の拠点として使用することが可能。
	夏休み夜間巡回指導	浦添グリーンハイツ自治会が行っている夜間パトロール。
地域コミュニティ・地域	経塚ライトアップ・イルミネーション	浦添市経塚自治会が2005年から毎年取り組んでいる。経塚ゆいまーるセンターを中心に、400mほどにわたって繰り広げられる。
	グリーンハイツ自治会	ICA沖縄国際センターに滞在する研修員が、浦添グリーンハ

区分	名称	概要
活動	JICA地域交流	イツ自治会主催による夏祭りに参加
	ふれあいサロン	市民が主体となり、気軽にご近所付き合いの輪を広げ、安心して暮らせるコミュニティづくりを推進するために身近な居場所づくり活動。
	てだこまつり	毎年7月下旬の週末、浦添市の浦添運動公園をメイン会場にして2日間にわたって行われる夏祭り。
商業	浦添郵便局	浦添市仲間にある郵便局。
	サンエー経塚シティ	浦添市経塚にある株式会社サンエーが運営するGMS。
	タウンプラザかねひで前田国際市場	金秀商事株式会社が運営するスーパーマーケット。
	ユニオン	24時間営業の沖縄県内に店舗を構えるスーパーマーケット。
	ローソン浦添経塚店	浦添市経塚にあるコンビニエンスストア。
	ファミリーマート グリーンハイツ経塚店	浦添市経塚にあるコンビニエンスストア。
	ファミリーマート 浦添前田店	浦添市前田にあるコンビニエンスストア。
	ローソン 前田小学校前店	浦添市前田にあるコンビニエンスストア。
国際交流	JICA国際センター	「浦添にある国際センター」として親しまれているJICA沖縄。全国に15か所あるJICAの国内拠点のひとつ。開発途上国の政府関係者などを対象にした各種分野の研修、沖縄からJICAボランティアの募集や派遣に関する事業、県民に対して異文化理解講座や交流事業などを行っている。
	国際フェスティバル (JICA国際センター)	国際協力・交流に関する理解をしていただくため、実際に国際交流を体験できる。
	研修員文化交流 (JICA国際センター)	文化の紹介や体験など、学校や各団体が企画した交流会を通し、研修員の国についても理解を深めてもらうこのプログラム。
	OIC食堂・ハラール食 (JICA国際センター)	OIC(おいしー)食堂では、世界各国から沖縄に技術研修を受けに来ている研修員のために各国の食習慣や宗教に配慮したメニューを提供。OIC食堂は、ムスリムの研修員も多く利用するので、ハラール食材とハラール食専用の調理器具を使用し料理を提供。
教育	浦添工業高等学校	浦添市経塚にある県立の工業高等学校。
	浦添商業高等学校	浦添市伊祖三丁目にある県立商業高等学校。
	前田小学校	浦添市前田にある公立小学校。
	浦添小学校	浦添市仲間にある公立小学校。
	浦添中学校	浦添市仲間二丁目にある公立中学校。
	県立鏡が丘特別支援学校	浦添市当山三丁目にある公立特別支援学校。肢体不自由者を主な対象とした特別支援学校として県内で最初に開校した。
	琉球大学	西原町に本部を置く国立大学である。
	浦添市教育研究所	教育に関する調査研究や教職員の研修等、教育の改善・充実・発展を推進すべく、昭和63年4月1日に浦添小学校校舎内に設置された。

5. 経塚公園、前田公園の概要

(1) 計画諸元

項目	経塚公園	前田公園
種別	近隣公園	地区公園
面積	約 2.0ha	約 4.9ha
用途	交流ふれあい広場、駅前広場、 駐車場、遊具広場、多目的広場、 保全林等	多目的広場、テニスコート、自然 保全林、遊歩道等
進捗状況	用地取得済／整備中	用地取得未済／計画中
スケジュール	H31年度より順次部分開園 H36年度全面開園予定	H34年度 整備着手予定 開園時期未定

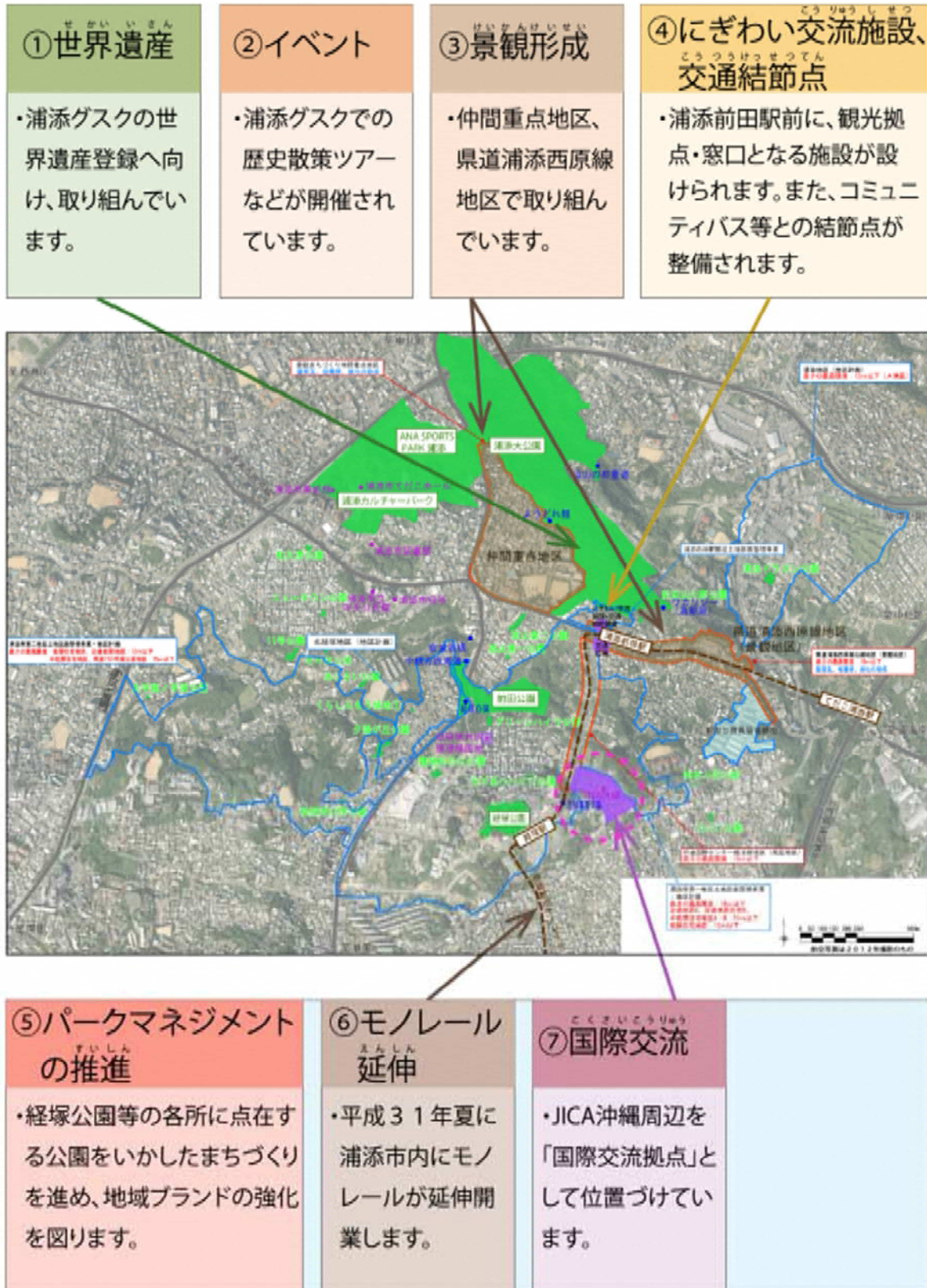
(2) 計画図

<経塚公園>



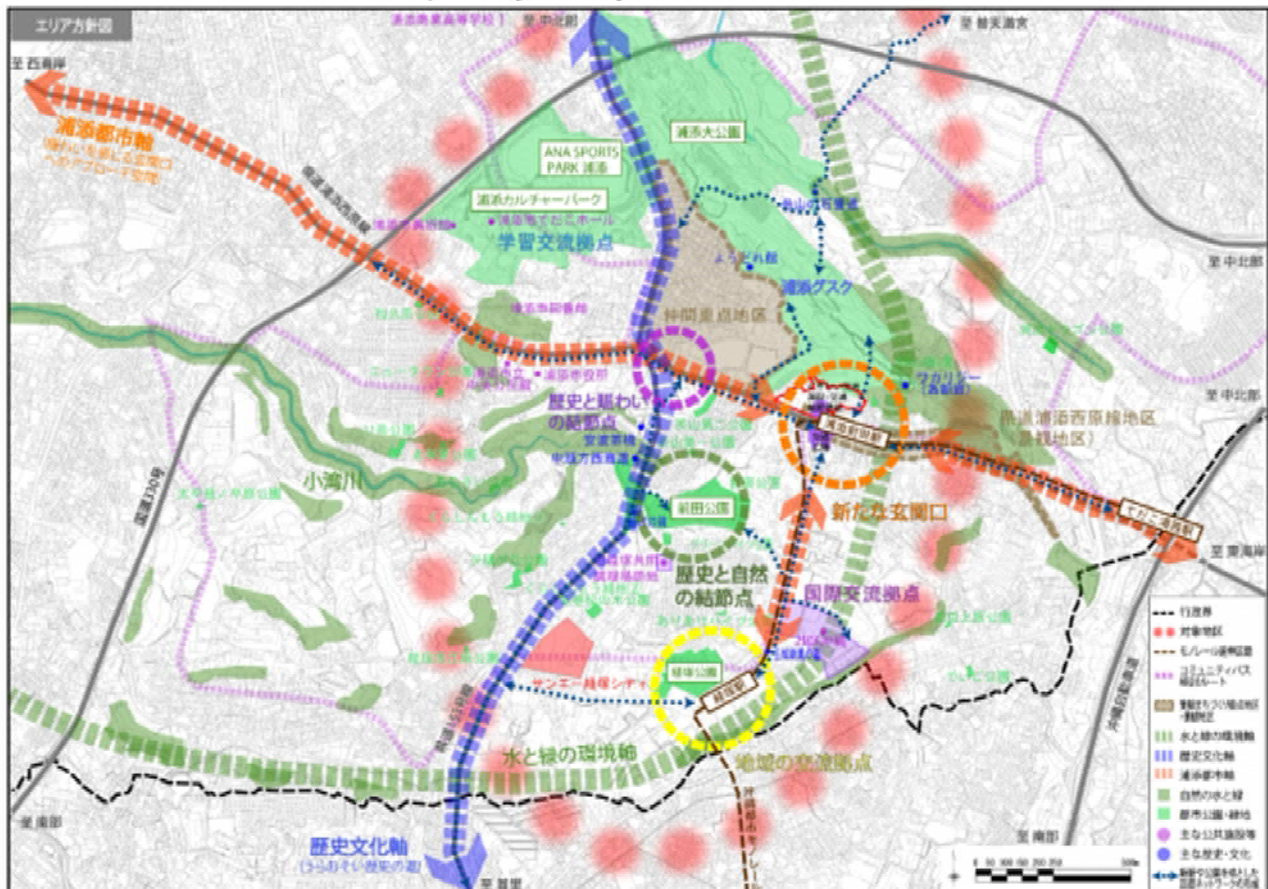
(3) これまでの取組みと今後の方針

経塚・前田地区の主な取組み



経塚前田地区の今後の方針

Future policy of Kyozuka·Maeda area



●社会動向

- “沖縄らしさ”を失うことなく沖縄が持続可能に発展し、県民を豊かにすること (21世紀ビジョン)
- 地方創生、社会経済情勢の変化、法改正、公民連携の動き、モノレールの延長整備、観光客増加等



○パークマネジメントの市全域への展開

将来的には、経塚・前田での取組みをモデルとして、西海岸開発や市内主要エリアのエアーマネジメントや市内の他公園へのパークマネジメントへ展開させて、協働まちづくり推進

- ①浦添前田駅周辺、ANA SPORTS PARK浦添、浦添大公園などを含む周辺エリアの民間誘導などエアーマネジメントにより“浦添の顔”を更に発展
- ②景観協議会、これから組織組成が見込まれる観光交流拠点、国際センター線沿道、経塚公園のマネジメント組織が相互に連携・統括して“浦添の顔づくり”を担う